

限度とし、貨車検修庫に準じ検査坑、蒸気配管などを備え、とくに翼の開閉に支障しないような設備とする必要がある。

5 給水設備

客貨車区では車両洗じょう、客車給水、すえ付汽缶用、その他雑用水の使用量が大なるため十分なる水量と、客車給水には洗面・うがいなどのため処理済の水を供給しなければならない。

6 諸建物

建物は前述の車庫、職場のほか本部となる事務室をはじめ従事員の詰所、更衣室、講習室、休養室、湯沸場、浴場、洗面所便所および材料・部分品・油類その他の倉庫などである。これら諸建物は構造上通風採光に注意し、冷暖房、給水設備などからなるべく合築する方がよいが、建物の位置は作業能率に影響するところが大きであるから、この点も考慮することがたいせつである。

7 機械設備

当該区の修繕作業内容および作業量により取捨選択して設備するのであるが、客貨車区において使用される諸機械を挙げるとつぎのようなものである。

- (1) 物揚機械類 リフティングジャッキ (20~40t)、モノレールクレーン (1~5t)、天井 (てんじょう) クレーン (15t)、門型クレーン (15t)
- (2) 工作機械類 旋盤 (4~6尺)、型削盤、ボール盤、研摩盤、バフ盤、帯鋸 (のこ) 盤、円鋸盤、金切帯鋸盤、かなな盤
- (3) 電気機械類 発電機試験装置、充電機械、動力伝達装置、硫酸混合装置、電熱乾燥機、溶融炉、電気溶接機
- (4) その他の機械類 火床、送風機、空気圧縮機、真空掃除機、すえ付汽缶、排塵機、塵芥 (じんかい) 焼却装置、自動洗じょう機

8 電気関係

客貨車区の一般電気通信設備は、ほかのものと何ら異なるものではないが、電気関係の作業は客車の発電機・扇風機および蓄電池などの検査・修繕あるいは充電などはその主なもので、このほか列車尾灯・合図灯およびバッテリーカーの保守や、場所によっては列車の電気冷暖房を行う。したがってこれらの作業に必要な検査設備、修繕場および充電室が必要である。

また検査線、修繕線、洗じょう線あるいは客車留置線には、補充電のため充電線および栓 (せん) 受を、冷房客車区にあってはそのための配電設備が施設される。→客車洗じょう設備。客貨車検修車庫。検修車庫。(鈴木 宏・中山 隆)

きやくかしやくせん 客貨車区線 客車区、貨車区または客貨車区内のそれぞれの目的のため敷設されている入出区線、洗じょう線、検査線、修繕線、留置線および引上線などの線路あるいは線群の総称。(中山 隆)

きやくかしやくせんさがかかり 客貨車検査掛 主として客貨車区、客車区、貨車区における職で区長の指揮をうけ車両掛、整備掛を指導して、客貨車の検査 (列車検査、仕立検査、滞留検査、局部検査、臨時検査、運転検査等)、蓄電池関係の検査および試験、ならびにかつ大貨物、危険品および特種貨物等、輸送上危険を伴う貨物の積付状態の検査を行うものである。車両掛または修車掛の職を経て、鉄道教習所の検修科を修了するか、客貨車検査掛採用試験に合格したものから採用する。

(加藤誠次郎)

きやくかしやくけんしゅうしゃこ 客貨車検修車庫 (英) car inspecting and repairing shed (米) car rip shed 検修車庫は客車区、貨車区、客貨車区に付属する車庫で、それぞれ客車検修車庫、貨車検修車庫、あるいは客貨車検修車庫と呼称され

る。一般に検修庫はその機能により、検査庫と修繕庫にわけることができるが通常合築され一棟となっている例が多い。検査庫は仕立検査および仕立検査に伴う軽微な修繕を行い、修繕庫は乙修繕、純修繕、臨時修繕を行うことになっている。また必要に応じ、雪かき車庫、洗じょう車庫、操重車庫が付属している場合もある。これらの大きさについては、その仕立車両数等によって異なるが、おおよその規準をあげるとつぎのようである。

- 1 車庫梁 (はり) の高さは軌条面上 6m 以上とする。
- 2 車庫は通風・採光を良好にして、必要あれば入口に戸を設ける。
- 3 検査坑を設ける。
- 4 車庫内および客貨車検査・修繕線はコンクリート舗装として、車体解体箇所は木れんが舗装とする。(藤島 茂)

きやくかしやくのけんさ 客貨車の検査 客貨車は旅客・貨物を安全・迅速にかつ旅客に対しては快適に、目的地へ輸送することが使命である。この使命を果たすには車両の各部機構および作用について、いつも完全でなければならない。このため客貨車は使用の状況に応じ各種の検査を施行することに規定されている。

検査の種類および担当箇所はつぎのとおりである。一般検査は工場、局部検査は工場または客貨車区 (客車区、貨車区およびこれら三区の支区・派出所と機関区を含む。以下同じ)、仕立検査は客貨車区または工場、列車検査は客貨車区、運転検査は客貨車区または工場、臨時検査は客貨車区または工場。

1 一般検査

客貨車の使用状況に応じ一定の期間内ごとに車両全体にわたって、機構の状態および作用について細密に施行する検査である。

一般検査を行った客貨車は仕立検査、局部検査を同時に行ったことになる。

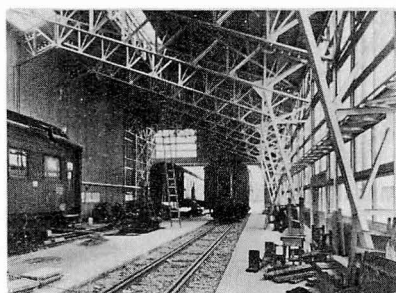
(1) 検査の期限

ア 客車 (暖房車を除く) 1年3月

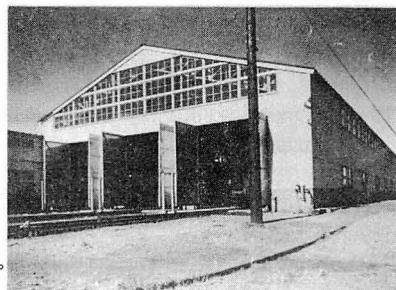
イ 暖房車 1年

ウ 貨車 A級4年 B級4年 C級3年 D級2年 E級1年。

貨車の級別は保守上つけた分類で、形式別分類は規程で定められているがおおむねつぎのとおりである。A級はだいたい新製車、B級は車両構造のよいもの、C級はおおむね普通の貨車、



1. 新潟客車区検修車庫内部



2. 尻内客貨車区検修車庫